

「やりたいこと」「おもしろいこと」を  
自分たちの力で形にしよう!

## 「小学生のための Summer College 2012」

### 好評のうちに終了いたしました!

二〇一二年七月三十一日から八月一日にかけて、小学生のためのサマーカレッジ2012を行いました。

被災した仙台市域の小学生を招いて、「学び、遊び、表現する」をテーマにした様々な講座と遊びを開催しました。昨年に引き続き、二回目の開校となります。予想以上の大反響があり、当初の予定を大幅に超え六十二名の小学生が参加しました。

初日の表現講座では数日前の大雨が嘘のように天候にも恵まれ、照りつける太陽の下、緑溢れる本学の遊歩道を歩きまわりました。

今年の講師は本学でも教鞭を執る東北福祉大学准教授の青木一則先生。遊歩道の自然の中で見たもの、感じたもの、五感をフルに活用して表現します。



オイルパステルやアクリル絵具を使い、筆ではなく、指や手、スポンジを駆使して思うままに色を乗せていきました。同じ遊歩道を歩いていても、発見したものの色は実に様々。彩色豊かに出来上がった作品を、小ホールの壁に貼り付け、グループの仲間達やボランティアの学生達と感動や感覚を共有します。時間が足りないと感じるほど、語り合いました。

小さな画伯達の力作はサマーカレッジ終了後、MG-LACの壁に飾られ、学生や教職員の目を楽しませてくれました。

子ども達が自然と触れ合っている間、大人達も大学でお勉強。大人のためのサマーカレッジは井上研一郎先生による美術の講座で、「女性を描く女性が描く」がテーマです。久しぶりの学生気分を味わった後、子ども達と同じ遊歩道を大人も歩きました。

\*\*\*

サマーカレッジ二日目に行われた本学教授陣による講座は午前、午後の二回に分けられており、それぞれ小学生達の希望を元にクラスが決まりました。バラエティに富んだ講座は選ぶだけでも一苦労。「全部うけてみたかった」「二つじゃ少ない」と言う小学生も沢山いました。

朝とお昼の遊びの時間、子ども達は炎天下をものともせず元気に走り回ります。イカダや伝承遊び、ボール遊びなど、室内外で思いつく限りの遊びを堪能した子ども達。一緒に動いていた学生やボランティア教職員の方が振り回される勢いでした。

二日間を通じて、参加者のランチとおやつを作ってくれたのは食品栄養学科の学生達です。「森のレストラン」としてピエリスを森林の雰囲気満載に飾り付けてくれました。鳴子のブルーベリーなど、地元の食材を使用して作られたランチとおやつは大好評で、子ども達はあつと言う間に平らげていました。

音楽科の先生と学生達による優美な弦楽演奏を聞きながら食べた二日目のおやつは、格別の美味しさでした。

荘厳なパイプオルガンが響く礼拝堂での修了証書授与式。小学生も凛とした雰囲気には圧倒され、肅々と執り行われました。修了証書を手にも満面の笑みで撮られた集合写真は、後日子ども達のもとに郵送されました。

昨年にも参加した六年生児童からは「来年はもう中学生だから参加できない。中学生のためのサマーカレッジもやって欲しい」と言う嬉しい声も。

ボランティアで参加した学生数名も「来年はもっと事前のミーティングや役割分担をしっかりとやって臨みたい」と次の開催に向けて、高い意欲を示しています。

\*\*\*

今回のサマーカレッジで記録担当になった学生のうち五名が地区後援会でサマーカレッジの様子を報告しました。撮影から編集まで全て自分達で行い、約十五分の映像を作り上げました。細部までこだわって作り上げた映像は会心の出来栄です。

十月に行われる大学祭でも上映も予定しています。学生達の力作を是非ご覧下さい。



LACでは震災後から被災した子ども達の日常を取り戻すための活動を行っています。今年には住友商事の東日本再生ユースチャレンジ助成金を獲得し、学習支援や「食のほっとタイム」などの食育支援の活動費用に充てています。

震災から一年半が過ぎ、仙台市内では震災前の日常を取り戻している地域が増えてきました。しかしながら、全国各地からボランティアや支援団体が入っています。行き届かない地域はどうしても出てきます。そこに同じ県内にいる私たちが行く意味があるのです。

### 【東松島市小・中学校】

七月から八月にかけて東松島にある小・中学校へ、本学より多くの学生がボランティアに向かいました。津波被害の大きかった東松島では十分な交通手段も無く、学生達も難儀しました。電車の復旧していない区域は代替バスを利用しなくてはなりません。路線バスすら無く、最寄駅から一時間以上歩く小学校もあります。見かねた受け入れ先の先生が、「自身の車に乗せて下さった事もありました。

夏休み期間中の学習支援は終わってしまいました。学生達は様々なものを得て帰ってきたようです。東松島の子ども達と触れ合ったことで、石巻市・仙台市の小学校のボランティアに参加する学生も出ました。継続的に関わりたいたい思いが強くなったようです。東松島から学生に色紙が贈られ、冬休みにまた来て欲しいと言う声が上がっています。

東松島・石巻と夏休み期間中数多くの学校に参加した学生の中から、代表して食品栄養学科四年の伊藤真奈美さんに今回の活動を振り返ってもらいました。複数の学校で活動しそれぞれの違いを感じた上で、変わらない部分も見付けたようです。「学習支援では、子どもの「分からない」が解消され「楽しい」に変化する過程に、使命感と喜びを感じる事ができた」とやりがいを得たようです。初日はぎこちなかった子ども達も日増しに、親近感を持ったようで、秘密事や相談なども話してくれるようになってい

## 被災地の子ども達 と MG ボランティア



きました。そんな様子を実際に体験した事で、「多くの震災関連のボランティアが、短期集中型で頻繁に面子が変わってしまふ。支援を受ける方も気を遣い疲れてしまふ。だからこそ長期間で関わっていくべき」と今後も活動を継続していく事に意欲を示してくれました。

### ～活動先・活動期間～

- 【東松島市】  
東松島市立赤井南小学校  
7月24日～7月26日  
東松島市立鳴瀬第一中学校  
8月2日～8月10日  
東松島市立宮戸小学校  
8月21日～8月24日  
東松島市立小野小学校  
8月23日

- 【仙台市】  
仙台市立南光台小学校  
8月27日～継続中

- 【石巻市】  
石巻市立中津山第一小学校  
7月25日(食のほっとタイム)  
石巻市立大原小学校  
8月27日～継続中

【仙台市立南光台小学校】  
一学期が始まる八月二十七日より活動を開始。震災後より仮設のプレハブ校舎となった南光台小学校で、一年生クラスを中心に活動中です。授業補助、プール、給食、掃除など多岐に渡って関わります。

既に七回参加している食品栄養学科二年の相澤恵美さんは「子ども達の豊かな発想は多面的で、枠の中で収まりがちな思考に刺激を受ける事も多い。養護教諭を目指しているので、子ども達をよく見る事の重要性を感じる。見えない変化や心の傷は日々の声かけやケアが大切だと実感した」と話しています。また、「挨拶や礼儀は基本だが、一時的な気持ちでなく本気で向き合ひ、継続的に通う事が重要」と参加の心構えを教えてくださいました。

【石巻市立大原小学校】  
牡鹿半島の海沿いにある学校で、校舎の直接的な津波被害はありませんでした。しかし、すぐ下にあつた学校の畑は津波を破られました。今でも雑草取り中、ガラス片や漂流物の破片が出てきます。

現在は被災し閉校した谷川小学校を受け入れられる形で一つの小学校に統合しています。全校生徒は現在二十七名。被災し転校した児童もおり、半数以上が仮設住宅から通っています。それでも、素直さと元気さは失っていません。広い校庭を存分に使い学年の垣根を越えて兄弟姉妹のように仲良く遊んでいます。

小学校教諭を目指している学生がボランティアに参加した日、ご好意で模擬授業をさせて頂いたいただきました。活動するたびもつと関わりたいと思わせてくれる素敵な学校です。

卒業生の本内さくらさんは現在、仙台市立七郷小学校で支援員として勤めています。昨年の同小学校でのボランティア活動が評価され、就職が決まりました。自主活動をキャリアにつなげたOGの一人です。

本年もサマーカレッジのボランティアとして参加して下さいました。その際に、後輩に向けて貴重なお話を伺いました。

\*\*\*

◎ボランティアとして関わっていた時のことを聞かせて下さい。

「震災直後にボランティアとして活動していたので、最初は子ども達にどこまで踏み込んで良いのか、震災の話題は避けるべきかと不安も多かった。でも子ども達の方が元気でこちらがエネルギーをもらえた。印象も最初と最後ではだいぶ変わって、初めのころだと子ども達も警戒して反応が薄かったし、眼も合わせてくれない子もいた。でも次第に、次は何曜日に来てくれるの?と聞いてきたり、名前を呼んでくれるようになってすごく嬉しかった」

◎仕事として子供と関わるようになってボランティアの時と特に違うと感じた事は?

「私は養護教諭になりたくて、就職活動をしていたが、なかなか決まらなかった。そんな時に七郷小学校からお声をかけていただき、もう一回子ども達と関わりたいと思っていたので即答だった。ボランティアやつて良かったとすごく思う。

ボランティアの時は、子ども達にとつて先生ではないちよつと年上のお姉さんと言った存在。先生より少しだけ親しみやすいポジションだった。今は教職員として関わる、見る、知る範囲が違うので責任もつていかなければならないと強く感じる。子ども達には、挨拶が出来る子、相手の事を考えられる子になつて欲しい。廊下で会つたら大きな声で挨拶するとか。何か問題があつたら、ただ注意するのではなく、何故ダメなのか、相手がどう感じたか、伝えて注意していくようにしている」

OG  
インタビュー



【プロフィール】

本内 さくらさん  
2012年3月 食品栄養学科卒業  
仙台市立七郷小学校で支援員として勤務中。  
2013年4月より東京都の養護教諭。



さなぎプロジェクト一覧

- ①国際支援活動 Triangle  
学生にもできる国際協力をテーマに活動
- ②楽食プロジェクト  
宮城学院の学食メニューの提案と提供
- ③おいしい放課後  
楽しみながら料理の知識・技術向上を目標
- ④MGPR  
オープンキャンパスなどを学生目線でPR
- ⑤Heartful Sweets (NEW!)  
マクドナルドハウス仙台でお菓子の提供
- ⑥harapeco ぱくぱく (NEW!)  
体にやさしいお菓子の製作と販売
- ⑦Internatio なる!? (NEW!)  
学生のための国際交流イベント企画運営
- ⑧Café Parterre (NEW!)  
うふカフェでのヘルシーランチ提供運営
- ⑨本の森プロジェクト  
積読本の有効活用、本の魅力・価値を広げる
- ⑩エコプロジェクト CHERISH (NEW!)  
学内の可燃ごみと資源の分別促進

(申請順)

さなぎのこと

◎ボランティア活動をしているこれからしようとしている後輩メッセージをお願いします

「初めのうち、ボランティアとは(や)つてあげるもの(だ)と思つていた。お金をもらうわけではないし、どこか上から目線な意識。でも子ども達と関わつていく中で双方向から(求めて、求められて)と言う関係だと気付いた。

ボランティアは四六時中必要なわけではない。(求めて、求められて)のバランスと信頼関係と共通の理解があつてこそ上手くいく。相手が何を求めていて何を考えているのか理解しようとしないと上手くいかない。理解しようという努力が必要。

宮学にいたから、先生達と関わつた事でボランティアに参加しようと思つた。それが七郷小学校に行くきっかけだと思つているので、人と人との関係を大切にしていきたいし、大切にして欲しいと思う」

さなぎプロジェクト(以下さなP)とは、これから大きな活動になっていく前段階の萌芽的な活動です。とは言つても、既に大きな活動を継続的に行つているプロジェクトもあります。サークルに昇格した活動もあります。さなPとは学生達の興味関心や、やる気が形になつたものなのです。これらの活動は大学から資金援助を受けて活動しています。

現在、さなPとして活動している団体は十あります。さなP発足から活動している団体がいくつもあります。今年になって出来たさなPもありますので、ご紹介します!

オープンキャンパスなどで活動報告のパネル展示を行いますので、機会がありましたら是非御覧下さい!

吉永小百合 原爆詩朗読会

～名取市～



まだ肌寒さの残る四月十四日(土)名取市文化会館で、本学の音楽科有志(君の歌プロジェクト)と中高のハンドベル部が吉永小百合さんの原爆詩朗読会で同じ舞台に立ちました!

「被災した子ども達を支援し平和を考える会」が主催となった今回の公演では、日本文学科三年の向谷地香里さんが司会を務めました。名取市出身と言う事もあり、今回の原爆詩朗読会には深い思い入れを持って臨んだようです。

大女優、吉永小百合さんの優しい声が淡々と、時に重く、胸に迫るように読み上げる原爆詩は、聞く人々に様々なものを考えさせてくれました。

間近で聞いていた向谷地さんは、「東日本大震災も原爆も、「忘れないこと」、「伝えていくこと」がいかに大切であるかを改めて感じた」と話してくれました。東日本大震災と、福島原発事故の経験は、年若い世代にも原爆詩に共感させる何かがあったようです。



「君の歌プロジェクト」の学生達は震災直後より、様々な場所で演奏や歌の披露を行い「音楽の力」を深く感じていたようです。音楽科の授業から生まれた「君の歌」。この一曲に込められる思いは、作詞作曲した学生達だけでなく、歌い手の学生達からも溢れんばかりに注がれていました。

朗読会の選曲は学生達が決めていましたが、雰囲気壊さないよう、選曲には相当悩みぬいたようです。「音楽科の先生と一緒に考え、平和や当たり前の毎日に感謝をする、前を向いて生きると言う事を念頭においた」と音楽科四年の佐藤麻衣さん、高橋佳那さんが語りました。

今回、多くの学生がボランティアとして参加し、会場運営に尽力しました。吉永さんの朗読を聴く事も出来、貴重な体験を喜んでいました。

MG-LAC  
新たな活動

【大崎食材見学会】

宮城県北部の農家や酪農家へ見学会とワークショップに行ってきました!

被災地への食育支援の事前準備となるため、食に関する自主活動プロジェクトなど二十名の学生が参加し、食材とその活用方法について学びました。

\*\*\*

【シャロン寮学習ボランティア】

大学生による中高寮の学習ボランティアは月曜と金曜の夕方に行われます。それぞれの得意分野を活かし、中高生からの質問に応えます。試験期間になると、週三回の活動で対応しています。

\*\*\*

【加茂中学校合唱ボランティア】

学校支援地域本部からの依頼で、音楽科四年の学生二名が合唱指導ボランティアを行いました。学内合唱コンクールが迫る中、数回にわたり活躍しました。教育実習を経験していた二名は、的確な指導だったと好評で、音楽科学生としての力を存分に発揮してきました。

\*\*\*

【在仙外国人日本語ボランティア】

日本文学科や日本文学科など日本語教育学を学んでいる学生を中心にICASが行う子供の為の日本語クラブで活動しています。毎週土曜日、日本語の学習の補助をしています。

【今後の予定】

現在も募集継続中のLACボランティアです。参加申し込みは講義館2階ピロティのLACまでどうぞ。

◇石巻市立大原小学校ボランティア

～二〇一三年三月まで活動予定

◇シャロン寮学習ボランティア

～二〇一三年三月まで活動予定

◇仙台市立南光台小学校

～二〇一三年三月まで活動予定

※右記以外の外部依頼ボランティアはLACに掲示しています。

\*\*\*

【パネル展示活動報告】

LACについてや、自主活動、災害復興など様々な活動をパネル展示します。

☆二〇一二年九月二十九日(土)

…オーブンキャンパス

☆二〇一二年十月十三日(土)

…十四日(日)

…大講堂

☆二〇一二年二月一日(土)

…オーブンキャンパス

\*\*\*

【編集後記】

MG-LACって何?どんなことしてるの?年度初めにそんな声を学生達から聞きました。今回の通信を作成した事でも学生達の疑問が解消され、LACを活用して頂ければ幸いです。

(MG-LAC)